

文部科学省現代 GP「歴史文化を踏まえた環境総合教育の拠点形成」採択

32. どう生きる？環境の時代  
- 日本と世界を考える -

講座内容 いま人類は未曾有といってよいほど便利な生活を享受しています。しかし、その周りの自然環境は汚染・破壊を受けて、地元の住民や本来そこに棲息していた他の生物が苦しんでいます。人類は、自らの子孫やものいわぬ生物に対して、壊された自然を取り戻す責任を負っていると考えられます。「21世紀は環境の世紀」と言われるゆえんはここにあるのではないのでしょうか。

本学には、環境の各方面で多年にわたって研究・調査・教育・実践活動に取り組んできた教授陣がそろっています。それを背景に本学が構成した「歴史文化を踏まえた環境総合教育」が、昨年度文科省の「現代教育ニーズ取組み支援プログラム」(略称「現代GP」)に採択されました。

この公開クラスはこの現代GPの趣旨「持続可能な社会につながる環境をテーマに大学と地域・世界と交流する」を実際化した一つの試みで、オムニバス方式で行います。別表でみるように、環境に関係する本学の教授陣の中から選ばれた複数の先生がそれぞれ異なるテーマを担当しますが、いずれの先生も未来に向かって積極的に打開を図る姿勢をめざしています。

講座日程・内容

土曜日	17:50 ~ 19:20	
4月14日(土)	自然を再定義する	國學院大學教授 里見 実
4月21日(土)	飲料水とその問題点	國學院大學教授 加藤 季夫
5月12日(土)	遺伝子組替え食品と市民運動	國學院大學教授 久保田裕子
5月19日(土)	森の教育学 - 東北タイのフィールド・トリップより -	國學院大學教授 柿沼 秀雄
5月26日(土)	制度のリズムと生命(いのち)のリズム - 森と子供と学校 -	國學院大學教授 楠原 彰
6月2日(土)	伝統的農村景観の保全と環境 - 一関市本寺地区を事例として -	國學院大學教授 吉田 敏弘
6月9日(土)	オゾン層破壊騒動を考える	國學院大學教授 柴崎 和夫
6月16日(土)	タイにおけるエビ養殖産業と環境問題	國學院大學准教授 中馬 祥子
6月23日(土)	原発訴訟 - 原発の安全性と司法審査 -	國學院大學専任講師 高橋 信行
6月30日(土)	地球と共生するライフスタイルとは？ - 日本と世界 -	國學院大學教授 古沢 広祐

単位数 2単位 受講料 20,000円 申込締切 3月26日(月)